

白杖制限 県議会に抗議

愛知の障害者団体「見直しを」

愛知県議会が目の不自由な人の白杖の持ち込みを制限している問題で、県内の障害者団体などでつくる「愛知障害フォーラム」の辻直哉事務局長らが二十三日、見直しを求める申し入れ書を三浦孝司議長あてに提出した。議会事務局は「規則の運用をどうするか」と議長と相談する」と応じた。

議会事務局によると、議会傍聴規則で「凶器その他危険物と認められるものを携帯している者」の傍聴を禁止している。

議会事務局は、二〇一四年十二月の本会議を傍聴しようとした豊橋盲人福祉協

会の役員らの事前の問い合わせに対し、白杖が規則に抵触すると説明。当日もあらためて「折り畳み式はかばんにしまい、入らないものは係員に預けてほしい」と伝えた。

この日に応じた議会事務局議事課の高須浩課長は「白杖の携帯が必要との申し出があれば、議長の許可を得て原則認めている。今回は説明が不十分だった」と釈明。これに対し辻事務局長らは「そもそも許可が必要な」と自体が変。（許可が不要な）メガネや補聴器と同じように扱えないか」と求めた。

2015.2.24
朝日

「白杖は危険物じゃない」

傍聴を望む視覚障害者に対し愛知県議会が白杖の持ち込みを制限しているため、名古屋市障害者団体「愛知障害フォーラム」が23日、改善を申し入れた。県議会は白杖を「危険物」としており、持ち込みには議長の許可が必要。団体は「差別だ」と抗議した。

県議会の傍聴規則は、杖や傘は投げ込まれる危険性があるとして持ち込みを禁止している。豊橋盲人福祉協会（同県豊橋市）の彦坂和夫会長（83）は昨年12月、視覚障害者らと

愛知県議会 持ち込み制限 障害者団体が抗議

県議会へ本会議の傍聴に訪れた。彦坂さんら十数人が折りたたみ式の白杖を持っていたが、議会事務局に求められ、カバンにしまつて傍聴した。

同協会も加盟する愛知障害フォーラムは「視覚障害者にとって杖は体の一部。危険物と認識されることは明らかに差別だ」と抗議。彦坂さんも朝日新聞の取材に「白杖は社会参加に絶対必要」と改善を求めた。

議会事務局は「議長への許可の申し入れがあれば、持ち

込みを断ることはない」としている。ただ、このことを彦坂さんらには説明しておらず、「説明不足だった」と認めた。

自らも弱視で、抗議に加わった名古屋市の横井由夫さん（59）は議会事務局に「どこへ行っても白杖を預かると言われたことはない。議長の許可が必要な」と自体が問題」と伝えた。

議会事務局は、抗議への対応は「議長の判断を仰ぎたい」としている。岐阜、三重の両県議会は、白杖を「障害者に必要」として持ち込みを制限していない。